

# 図書館未来プラン検討会議の調査検討（前期）

## （1）事務事業評価

図書館で行っている事業について検証するため、未来プラン検討会議委員により継続すべきもの、内容検討すべきもの、廃止すべきものの3つの区分で事業評価を行った。実施している多くの事業に対して、「継続すべき」という評価を得た。複数の委員から「内容検討すべき」という評価があった事業は、以下のとおり。

### ア 広報（図書館だより等）

- ・広範囲に配布できるような方法の検討
- ・見やすい紙面になるような工夫が必要
- ・図書館の機能（例：ホームページからの予約できること等）に関する情報が少ない。
- ・図書館主催事業の認知度が低い。

### イ 児童サービス（おはなし会等）

- ・他の機関と連携し、図書館が主体でやるべき事業か整理が必要
- ・現公民館と共催している事業は、新しいコミュニティ組織との調整が必要

### ウ その他事業

- ・映画会は、映画館が少ないので実施する意義がある。より多くの方に来ていただくよう開催場所・時間を再検討すること。
- ・ぬいぐるみお泊り会は、必要性は疑問だが、面白い取組みである。
- ・全ての事業について必要性をはっきりさせ、他の主催事業とのコラボレーションなどを検討すること。

## （2）市民アンケート

市民のニーズを把握するため、市民 2,000 人を無作為抽出してアンケートを行った。調査結果は以下のとおり。

- ・過去 1 年間に利用したことがあるのは全体の 35.7%。男性に比べ女性の利用率が高く、30～40 代の利用率が高い。また、20～40 代で子どものいる層は 57.7%と利用率が高い。
- ・読みたい本の入手経路としては「購入する」が大部分を占める。若年層では「インターネットで購入する」の割合が高い。
- ・利用者の満足度は「職員の対応(88.1%)」を筆頭にいずれの項目も 7 割を上回り良好である。
- ・これから優先的に行った方がよいと思うサービスでは「図書館外で貸出・返却できる場所」、「資料の充実」、「高齢者サービス」への要望が高い。
- ・自由回答では、「駐車場の拡充」、「貸出・返却の利便性向上」に関する意見が散見した。

### (3) 利用者アンケート

図書館利用者の利用傾向や要望を把握するため、図書館利用者を対象にアンケートを行った。図書館の利用方法が便利になることを望む意見が多かった。

主な意見は次のとおり。

- 図書資料（新刊、ビジネス書、他各分野）の充実
- 読書手帳の導入
- 図書館ホームページの利便性（資料検索、予約方法）の向上
- 館外にサービスポイントを設置
- 開館時間・休館日の変更の検討
- 職員対応の向上
- 施設の整備（本館駐車場の整備、静かな環境、飲食スペース、Wi-Fi 環境の整備など）

### (4) 市民協働ワークショップ

様々な立場の市民 20 名と共に本館・各分館の問題を共有し、その解決に向けた手段を考える機会として、本館・分館別にワークショップをそれぞれ各 3 回開催した。

#### ア 本館ワークショップで出された主な意見

- 福井県鯖江市 JK 課プロジェクト<sup>※</sup>のように、ボランティア活動に中高生にも加わってもらうなかで、高校生の意見を反映すること。
- ビブリオバトルのような発表する場としての行事を開催すること。
- 館内の Wi-Fi 環境整備
- 本館駐車場の整備

※ 福井県鯖江市 JK 課プロジェクト：JK（女子高生）が中心となった市民協働推進プロジェクトのこと。

#### イ 分館ワークショップで出された主な意見

- 分館の本を庁舎の 1 階や病院フロアなど、目につきやすい所に置くこと。
- 地域のイベントや放課後児童クラブなど、人が集まる場所へ出かけて貸出返却を行うこと。
- 大人向けの朗読会や読書会を実施し、地域の人・団体と交流すること。
- 庁舎に来たついでに気軽に立ち寄り、のんびり過ごせる場所としての整備

#### ウ 共通して出された意見

- 来館が困難な利用者（高齢者等）に対して、本の宅配のサービスを行うこと。
- 本館内に飲食可能な談話スペースの確保

## (5) 図書館未来シンポジウム

市民にアンケートの結果や検討会議の状況について報告するとともに、図書館未来プランの概要を報告し、図書館の未来の姿と役割について考える機会として開催。



### ア パネルディスカッションでの意見

文化芸術の専門家・図書館利用者・高校生・未来プラン検討会議委員の4名から、以下の意見が出された。

- ・社会的弱者に来てもらい、居場所と出番を作ることで社会とつながる場にする。
- ・コレクションの充実や職員資質の向上によるレファレンス※機能の強化が大切
- ・学生が行きたいと思う図書館を（参考書の充実・美術館の作品展示・観葉植物で明るい雰囲気づくり）
- ・教育行政の中で図書館の位置づけをしっかり決めること。
- ・アクティブラーニングの視点から、グループワークができる場所であること。
- ・放課後、図書館に行く高校生は7%（ツイッターでのアンケート調査結果）
- ・利用者が何を求めているかをしっかり把握すること。
- ・図書館職員に地域コーディネーターの役割が求められている。
- ・未利用者の掘り起こしが必要
- ・子どもの読書離れを防ぐ
- ・資料の充実

※ レファレンス：  
利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務のこと。

### イ 会場アンケートでの意見

#### ■ 出会いの場

- ・開かれた図書館となること、来館することに期待を持たせる工夫が必要
- ・静かな場所から共に学ぶ場、出会いの場となること。
- ・使いたいけど使えない人が使えるよう、弱者への対応が必要
- ・まずはBGM、コミュニティスペースの工夫を試みる。

#### ■ 広報・情報提供

- ・情報発信が大切、できることを掲示する。
- ・学校や市民に、図書館が多様に利用できることを学ぶ機会が必要

#### ■ 連携企画

- ・芸術・文化施設等との連携企画に期待する。
- ・豊岡市の施策や学校教育との連携が重要である。
- ・縦割り行政を打破して、図書館がコミュニティを変えてほしい。

■ユーザー側が何を求めているか把握する必要がある。

■全域へのサービス

- 地域への移動図書館車の運行
- 遠方で来館しにくい地域では、学校図書館の開放できないか。また、専門職員の配置、学校図書館資料の充実も必要である。